

Mutsumi

睦眉会会報

発行者

徳島大学睦眉会

徳島大学医学部保健学科同窓会

徳島県徳島市蔵本町3-18-15 〒770-8509

徳島大学医学部保健学科内

TEL/FAX:088-633-9067

E-mail: mutsumi.jim@gmail.com

発行責任者 河田明男

睦眉会の皆様へ

睦眉会の皆様、日ごろは本学の教育研究についてご理解とご支援を賜り、本当にありがとうございます。睦眉会の会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のことと存じます。平成25年4月に、学科長を拝命し、1年6か月となります。ご報告と今後のさらなるご協力をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

【保健学科】平成26年度の国試合格率は、看護師97.4%、保健師94.2%、助産師100%、放射線技師94.7%、臨床検査技師100%で、開学以来全国平均に比べて高い水準を維持しています。

8月に保健学科のオープンキャンパスが開催されました。台風11号が接近し、あいにくの空模様にかかわらず、看護専攻は215名、放射線技術科学専攻は92名、検査技術科学は66名が参加され、県外からも多くの参加がありました。DVDにまとめた大学の施設、入学後に学ぶ学習内容や実習風景を見ていただき、血圧測定、手洗い、AEDなどの体験実習や教員と現役学生による相談会を行い、参加者にとって有意義な半日を過ごしていただきました。

今年の10月から総合研究棟が完成し、3階が保健学科専用のフロアで、3部屋と自習室があり、学生の学習環境がさらに良好となりました。

【保健科学教育部(大学院)】平成26年度の学位授与数は、修士課程は28名(看護学領域19名、医用情報科学領域7名、医用検査学領域2名)で、博士後期課程は4名(生涯健康支援学領域4名)で、開学以来137名の学生が修士号を、9名の学生が博士号を取得しています。

3月には大学院のオープンキャンパスを初めて行い、各分野(研究室)がポスターを作成し、教員が学生に研究成果や将来の職業について、熱心に語りました。今年度は、修士課程に24名、博士後期課程に6名が入学されています。

同窓会事業について

不順、異変の夏も終わり、清々しい秋の青空が広がっています。睦眉会も順調な発展の下に平成25年末現在、6,324名を擁する大組織へと成長して参りました。これも会を見守り育て参画いただいた会員皆様の不断の御協力・御支援の賜であると考えております。

さて本年は睦眉会では特筆すべき2つの事業が実施されました。講演会の開催と同窓会名簿の発行です。7月6日徳島大学教授・環境防災研究センター副センター長 中野 晋先生を講師に迎え「巨大災害に備えて私たちができること」と題して時宜を得た講演をいただきました。50名以上の参加者を得て、現実に即し得ることの多かった講演でした。

8月初旬から配布を開始したのが「同窓会名簿 2014」です。5回目の発行となります。前回は2009年の発行でした。現在、同窓会名簿の発行に際しては多々問題が有ることも承知しております。しかし、役員会としては「卒業生と在学学生を繋ぐツール」とした位置づけで発行しております。その趣旨を生かして、本年より名簿を在学学生(学部生・院生)全員に配布し就職活動に有効利用してもらうことにしました。ただ「同窓



キレンゲショウマ
ユキノシタ科

徳島大学医学部保健学科長
徳島大学大学院保健科学教育部長

近藤 和也



【国際交流】以前よりフロリダ・アトランティック大学 (FAU, 米国)、テキサス大学ヒューストンヘルスサイエンスセンター(米国)、ヘルシンキメトロポリア応用科学大学(フィンランド)と学術交流を締結し、毎年学生が交流しています。今年も5名の学生が8月16日～9日28日の期間に、ヘルシンキメトロポリア応用科学大学で学び、有意義な留学生生活を過ごしてきました。また、ヘルシンキから1名の留学生在が本学に生まれ、小児看護と精神看護を現在、学んでいます。

6月に丹黒章医学部長補佐、谷岡哲也保健学科・教育研究科委員会委員長、村澤普恵国際コーディネーター、ロクシン教授、私の5名で、フィリピン大学マニラ校、シリマン大学、イースト・ラモン・マグサイサイ大学の3大学を訪問し、学術交流に関して、詳細な打合せをしてきました。

9月よりロクシン教授(前FAUの教授)が看護技術学の教授として着任され、早くもInternational Nursing Basic Course(4年間のコース)を立ち上げられ、海外の看護師免許を取得し、海外で看護師として働くことを希望する学生を募集しています。この卒業生から海外の看護技術や看護精神を学び、本学に帰ってこられる人材が育つことを期待しています。

保健学科及び大学院のホームページをリニューアルしています。各分野(研究室)のホームページもありますので、ぜひとも以下のサイトをご参照ください。保健学科 <http://www.tokushima-u.ac.jp/med/faculty/introduction/health/>

保健科学教育部(大学院) http://www.tokushima-u.ac.jp/med/graduate_school/

同窓会の皆様には、今後さらに徳島大学医学部保健学科および大学院の将来に関心を寄せていただき、ご支援・ご高配をいただけますようお願いいたします。

徳島大学睦眉会会長 河田 明男

徳島大学医学部附属診療放射線技師学校3期生



会名簿」は個人情報のもたる物でもあります。この際、学生諸君には社会人予備軍として「個人情報保護」の実地教育の一環とした取り扱いを学んでいただきたいと思います。

徳島大学保健学科は開学13年を経過しています。保健学科の存在意義は優秀な医療技術者の教育・輩出にあると言えます。人を育てるのは人にあります。優れた師を得ることは一生の宝と言えます。職業とは単に生活の糧を得るのみに非ず、職を通じて自他に満足を与える物で有りたいと思います。我々の立場で言うと、「患者さん」に満足していただき感謝される仕事こそが最高の成果であると言えるでしょう。現在の医療はチーム医療を推進しています。医師をはじめ多種多々の医療技術者が協力協働して治療にアプローチし、最大の成果を得る方策をプランする。チームの一員として活躍する際に重要となるのは理解力と調整力です。このことは教育の成果で反映されます。医学知識、患者心理、経済学等を駆使し徳島大学で培った学力を反映し患者に喜んでもらうことが最高の結果となります。

睦眉会は今後も学生教育に応分の助力を傾注したいと考えています。

同窓生通信

徳島大学病院の糖尿病看護認定看護師として

徳島大学医療技術短期大学部看護学科10期生
徳島大学病院

瀧川 稲子



H12年3月徳島大学医療技術短期大学部を卒業し、H12年の4月から徳島大学病院で働き始めました。入職したのは、呼吸器内科病棟でした。整形外科病棟、消化器・内分泌内科病棟を経て、現在は、アンチエイジング医療センターにて糖尿病患者さんへのフットケア、糖尿病透析予防、療養指導を主に担当しております。

糖尿病看護認定看護師を目指したきっかけは、徳島県の「糖尿病に強い看護師育成事業」の実習場所が徳島大学病院の内分泌・代謝内科病棟であったからです。県下の優秀なCDEJ（糖尿病療養指導士）が徳島大学病院に集まり実習をするのです

が、私が病棟実習の責任者であるのに糖尿病に対する理解が低く、知識も技術もないままでは、指導はできないと思ったからです。

H23年6月に東京武蔵境にある、日本赤十字看護大学 看護実践・教育・研究フロンティアセンターに半年間、糖尿病看護の勉強に行かせていただきました。糖尿病看護に熱い仲間たちと出会え本当に楽しく有意義な半年間でした。

H24年の6月から糖尿病看護認定看護師として活動しております。徳島大学病院での糖尿病患者さんへの指導の他、糖尿病院内認定コースの企画と実践、院内・院外の講師や日本糖尿病教育・看護学会での研究発表や企画委員など活動は確実に広がっております。

徳島県の糖尿病死亡率は約20年にわたりワースト1位を記録しており、徳島県の糖尿病対策は県の重要課題だと認識されております。

2型糖尿病は慢性疾患であり自覚症状にも乏しく、病識が少ない患者さんに対して、どこまで生活実態に見合った患者指導を行い生活との折り合いをつけ実践につなげるか、看護師の力量が問われてきます。徳島大学病院の糖尿病看護認定看護師として日々研鑽に励み、医師やスタッフの皆様と力を合わせてチームで糖尿病患者さんを支援していきたいと思っております。

超音波検査の可能性

徳島大学医療技術短期大学部衛生技術学科5期生
徳島大学病院

西尾 進



私はホウエツ病院、徳島市民病院を経て、現在徳島大学病院超音波センターで勤務しています。超音波検査の世界はいろ

いろな資格があります。まず初めに取得するのが超音波検査士です。超音波検査に従事するにあたり、超音波検査士は目標ではなく、スタートラインです。超音波検査士の資格は、循環器・消化器・泌尿器・婦人科・体表臓器・血管・健診の7領域に細分化されています。私は循環器・消化器・体表臓器・血管の4領域を取得しました。その他、血管診療技師、心エコー

図学会認定専門技師を取得しました。別に資格マニアな訳ではありませんが、気がつけば資格が増えていました。

超音波検査を行うにあたり、一番の財産はよき指導者に恵まれたことです。ホウエツ病院時代に本廣氏からは超音波検査のいろはを教えてくださいましたし、徳島市民病院時代には岩城先生、折野先生に循環器内科学の臨床を教えてくださいました。また、20年にわたり徳島大学循環器内科の山田先生には心エコー図学についてご指導いただきました。現在では、楠瀬先生（アメリカ帰り）に研究についてご指導いただき、腹部エコー領域では、消化器内科の六車先生、放射線科の高尾先生にご指導いただける環境で仕事をしています。その中でも循環器内科教授の佐田先生には海外発表を何回も経験させていただき、いろいろな見聞が広がりました。佐田先生をはじめ、ご指導いただいた先生方に対し、感謝に堪えません。

超音波検査は、検査者によって結果が変わること、リアルタイムで病態把握ができること、比較的どこでも手軽に検査ができることなどが魅力です。超音波検査がここまで発展した理由として、飛躍的に装置のスペックが向上したことが挙げられます。そしてまだまだ発展していく分野であると思います。昔は見えなかったものが、今では見える時代です。興味がある方は、是非超音波検査の門をたたいて下さい。しかし、どこまでいっても骨と空気は見えませんが・・・。

県西部初の放射線治療開始に向けて

徳島大学医学部保健学科放射線技術科学専攻 1 期生
徳島県立三好病院

杉本 涉

私は徳島大学卒業後、同大学院の修士課程に進学するとともに、徳島県立中央病院に就職しました。昨年まで7年間、徳島県立中央病院で勤務をしていましたが、異動により、本年4月から徳島県立三好病院で勤務しております。

私の勤務する徳島県立三好病院は徳島県の西端あたりに位置しており、美しい山々と清流に囲まれた所にあります。当院は今年8月に入院棟が新築され、それに伴い放射線部門も新病棟に移転となりました。一般撮影、CT、MRI、DSAの各装置が一新され、放射線治療装置も新しく導入されました。新病棟の開院後、私は放射線治療を担当させて頂くこととなり、現在臨床開始へに向けて準備をしております。当院は今まで放射線治療の経験がなく、装置の導入から実際の運用まで、全てが一からの立ち上げとなっております。やるべきことが山積みで、日々奮闘しておりますが、任せて頂いた仕事に対してすこくやりがいを感じております。

私事ですが、三好病院の転勤と同時に単身赴任となってしまい、家族と会うのは月に2回ほどだけとなってしまいました。6月に生まれた次女には会うたびに泣かれる始末で、完全に知らない人になってしまっています。早くお父さんと分かってもらえると良いのですが、当分無理な気がしております・・・。

放射線治療は近年、手術、化学療法と並ぶがん治療の3本柱として注目されるようになり、がんの治療法として放射線治療を選択する患者さんも増えてきました。当院は徳島県の公立病院では初となる緩和ケア病棟を開設し、がんの初期から末期のケアまであらゆるステージに対応できる病院を目指しております。そういった中で放射線治療の持つ役割は、今後増々大きくなると考えられます。当院の放射線治療が、この地域に住む方々のがん治療において、より良い選択肢の一つとなれるよう尽力したいと思っております。

まだまだ若輩の身ですが、諸先輩方、同輩、後輩の皆様との繋がりを大切に、少しでも成長していけるよう頑張っていきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ致します。



モミジイチゴ
バラ科

22年ぶりの徳島、嬉しい再会

徳島大学医療技術短期大学部看護学科 1 期生

柴田美奈子



私は平成3年に医療技術短期大学部看護学科を卒業後、助産師となる進路を定め、地元である福岡に戻りました。助産師として小倉の総合病院の産婦人科勤務を経て、現在は行政で地域の母子保健業務（新生児訪問、乳幼児健診等）に携わっております。いつになっても仕事と家庭の両立には余裕ができませんが、日本助産師会福岡支部にて理事として活動もしております。

昨年5月、日本助産師会通常総会・助産師学会が、徳島あわぎんホールで開催されました。次年度（今年）の開催県が福岡でし

たので、全国総会実行委員となった私は、総会準備と運営の参考のため、22年ぶりに徳島を訪れることになったのです。

久しぶりの徳島は、駅も街並も様変わりしておりましたが、「このあたりはよく通ったな」と学生時代に友達と自転車で走り回っていた懐かしい思い出がよみがえってきました。

滞在3日目、学会が始まるまでの朝の時間を利用して、校舎まで行ってみることにしました。校舎の前で写真を撮っていると、校内に入ろうとされる方がいたので声をかけてみました。その方は恩師の多田敏子先生でした。先生は私のことを覚えてくださり、また、教員となられている同期の友人、橋本浩子さん、桑村由美さんとの再会もできたのです。短い時間の語りでしたが、夢のような嬉しい再会でした。

私だけでなく、同行した助産師仲間が「徳島に来て良かった。また来たい」と喜んでおり、徳島で私たちを迎えてくださった皆様のあたたかいおもてなしの心に感動して福岡に戻りました。

このご縁に感謝。徳島ありがとう～！

「お産」って誰のもの！？

徳島大学医療技術短期大学部看護学科 1 期生
徳島大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻 1 期生
倉智産婦人科

大久保千鶴



1 回目は14年ほど前、神戸大学病院周産母子センターに在籍中に執筆依頼を頂き、今回2回目となりました。第3子の出産を機に大学病院を退職し、個人クリニックの助産師として勤務をしています。

私の第3子の出産を担当してくれたのは、同じ助産専攻科を卒業した職場の後輩で「助産師の役割」をとて熱く語る助産師でした。後輩助産師のお産の介助は、とても素晴らしいものでした。お産の時に大切にされているという感動が、これ程までに人に満足感を与え、そして、人の価値観まで変えてしまうものだったの

かと。専攻科で教えて頂いた「安全で満足なお産」を3回目のお産で、初めて心と体で理解できました。今まで、私が介助させて頂いた産婦さん、ごめんなさいという思いと、そして、人の価値観にまで影響を与えるお産に携わる責任の重さを、再認識する機会となりました。

私が現在勤務をさせて頂いているクリニックは、妊娠初期からの保健指導～出産～卒乳までという期間で、お付き合いをさせて頂くことができます。産婦さんに合わせたお産も心がけています。ですが、施設のお産では、職場の都合や事情が優先され、それに合わせて終わらされてしまうことがあります。その時は、自分の力のなさを感じ、無力感が残ります。

「お産は、産婦さんのもの」当たり前のように、そうではない現実。助産師が妊産婦の権利を守るということの難しさ。

一番大切なものを見失わないように、助産師の仕事に夢を抱いていた学生時代の先生方の教えを胸に初心にかえり、これからも日々仕事に励みます。

第10回睦眉会主催講演会報告

睦眉会監事
徳島大学医学部附属看護学校10期生
後藤美弥子



今回は、徳島大学教授・環境防災研究センター副センター長でいらっしゃる中野晋先生をお招きしての講演会となりました。東日本大震災から3年半、何度も現地に足を運ばれ視察されながら学生、社会人、自主防災組織に係る人達に指導教育を継続されております。講演内容は防災の基本原則、東日本大震災から学ぶ、南海トラフ



地震で起こること、私達は何をすべきかを解りやすくお話し頂きました。特に防災の基本は「知る、考える、行動する」ことが重要である。職場内の話し合いの場を定期的を持つことも大切。わが家でも話し合いの場を持ちました。今回参加者は51名（会員41名、一般9名、学生1名）となりました。会場は和やかな雰囲気に入れられ、一般参加者の方達から「内容がとても解りやすく良かった」と笑顔のご意見を頂き、役員一同嬉しく修了することができました。



平成25年度 徳島大学同窓会連合会交流会(びざん会)と施設見学会に参加して

徳島大学睦眉会理事 (事務局)
徳島大学医学部附属臨床検査技師学校 4 期生

梅野真由美

平成25年度の徳島大学同窓会連合会交流会(びざん会)は、平成25年10月24日(木)に、初めて蔵本キャンパスで開催されました。

まず、びざん会に先立ち、18時より蔵本キャンパスの施設見学会があり、睦眉会からは私1名が参加しました。最初に新しく改修された大塚講堂を見学しましたが、大学祭のコンサート等でも使用されていた大ホールは見違えるように綺麗になり、座席数を少し減らして、ゆったり快適に利用できるようになりました。次に、新設された「徳島大学藤井節郎記念医科学センター」を見学しました。メインストリート東側に設置された、ガラス張りの外観が特徴的な美しい建物です。1階には多目的ホール(藤井節郎記念ホール)が配置され、2階から5階には、オープンラボ、多目的室、共通機器室などがあり、最新の設備が整い最先端の研究が行えるようになっていました。

続いて、18時30分から、徳島大学病院西病棟11階の日亜メディカルホールで、びざん会が開催され、睦眉会からは、河田会長、岩佐・坂野・杉原副会長、竹林・桑村・天野・前田理事と梅野の9名が参加しました。香川学長のご挨拶や施設紹介のスライドの後、各同窓会代表者の挨拶がありました。次に、講演会が開催されました。徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 石川榮作教授による、「孤愁(サウダーテ)の新しいモラエス像」という演題で、日本人の女性を愛し、徳島市で最期を迎えたポルトガル人のモラエスについての興味深

いご講演でした。

懇親会は、会場を隣のフロアのレストラン「Sora」へ移動して開催されました。睦眉会の河田会長の乾杯に続いて、各学部の現況報告が行われた後、和やかな雰囲気です立食パーティーが進められました。名誉教授の森本忠興先生、中村観善先生、竹内美恵子先生もご出席されており、懐かしく歓談させていただきました。

今回のびざん会は、盛りだくさんの企画で、楽しいひと時を過ごすことができました。会員の皆様も、またぜひ「びざん会」に参加して、他の同窓会の方との交流も広げてみてください。



藤井節郎記念ホール





橋本 公子
はしもと きみこ

徳島大学医学部附属助産婦学校 昭和42年卒業
元徳島大学病院看護師長
一般社団法人徳島県助産師会副会長

昭和42年に徳島大学医学部附属助産婦学校をご卒業になり、東京医科歯科大学病院、徳島大学病院に助産師として約40年勤務されました。徳島大学病院に在勤中は、国立大学病院では初めてとなる助産師外来の開設にご尽力され、また、採血業務を集約する中央採血室の立ち上げや、自動再来受付機の導入のきっかけともなった患者様の待ち時間短縮を図るための調査にもご貢献されました。退職後は、ウェルネス橋本助産所を開業され、母子の健康支援や思春期における性教育などに携わっております。また、徳島県助産師会副会長としてもご活躍中です。

このような長年のご活躍が評価され、平成26年3月には、医療功労賞を受賞されました。



活躍する卒業生



(徳島大学ホームページ、同窓会連合会の「ニュースレター」のコーナーに掲載されています。)



後藤美弥子
ごとう みやこ

徳島大学医学部附属看護学校 昭和33年卒業
元徳島大学医学部附属病院看護師長



昭和33年徳島大学医学部附属看護学校を卒業後、徳島大学病院に奉職され、精神科外来看護に長くご貢献されました。そのご経験から、徳島大学医療技術短期大学看護学科非常勤講師として後輩の育成にも携われました。材料部でのご勤務の中では、1994年全国国立大学病院材料部部長・婦長研修会の開催、ならびに、徳島大学病院再開発において看護部の中心メンバーとして、物流システムやME機器中央管理システムの構築など、現在の徳島大学病院の病院組織の基盤づくりに多大なご尽力をされました。また、1996年には徳島大学医療技術短期大学同窓会睦眉会初代会長に就任され、同窓会運営に準備期間も含め20年余り、現在に至るまでご尽力されています。

ご退職後は、徳島健康生協の「すくすくっ子くらぶ」責任者として10年にわたり子育てボランティアを担われ、2014年7月に徳島健康生活協同組合よりこれまでのご功績に対して感謝状を授与されました。防災時避難場所における幼児教育資格を取得され、地域自主防災組織役員を担う等、現在も精力的にご活躍されています。後輩が憧れる笑顔の美しい卒業生代表です。



退職された先生方からのメッセージ



退職後に思うこと

元徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部看護学講座教授

多田 敏子

睦眉会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。今年は、ことのほか雨がが多く、各地で災害が続きました。皆様方がご無事でありますことをお祈りしております。

私は、今年の3月で35年間お世話になりました徳島大学を退職いたしました。在職中には、多くの方に出会い、貴重な体験をさせていただきました。この場をお借りして、退職のご報告とお世話になりました感謝の気持ちをお伝えさせていただきます。誠にありがとうございました。

3月末までに、いろいろなことをとにかく終えておかなければという気持ちでおりましたので、マラソンランナーのゴール近くのような状況で退職の日を迎えました。退職後には何よりもほっとした気持ちでしたが、早、半年たちました。思いのほか、時間が過ぎるのが早く、驚いています。個人的には、食事や運動に気を配ることができるようになりました。料理が好きなので、食事の支度を楽しんでます。また、運動では、毎日目標を決めて歩くようにしています。多くの

人が歩いています。健康づくりに精を出している方が多いのに改めて気づきました。社会とのつながりでは、放送大学で声をかけていただき、週1回3時間程度ですが客員教授として、新蔵の日亜会館に出向いています。徳島県でも700人以上の方が放送大学で学んでいるそうです。退職後の方も、若い方も、幅広い年代の方が学んでおられます。学びたくて履修されているので、皆さんとても熱心です。

ありがたいことに、大学を卒業してから、41年間働き続けることができました。これは、看護師、保健師としての免許を持っていたからこそだと思います。今、保健学科で学んでおられる学生の皆さんは、学生時代の学びが基盤になります。社会から期待されています。学生時代の豊かな学びの体験が生涯に生き続けると思います。若い力を得て、睦眉会が今後ますます発展されることをお祈りしております。(2014.09.17)



アツモリソウ
ラン科

定年後半年

元徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部医用検査学講座助教
(徳島大学医学部附属衛生検査技師学校5期生)

松浦千恵子

定年後半年が過ぎました。学生時代を含む47年間、起きていた時間の大部分を蔵本キャンパスで過ごしたことになります。周りの多くの方々に助けられたからこそ、無事にその日を迎えられたのだととても感謝しています。

私が入学したのは、専任教官が2名の寺子屋学校と言われた2年制の医学部附属衛生検査技師学校で、3年制の臨床検査技師学校を経て短期大学部になり、現在は大学院を有する医学部保健学科になっています。その都度移転で、かつては授業そっちのけで総動員した学生さん達とともに引っ越し作業に励んだことも懐かしい思い出



ヤマシャクヤク
キンポウゲ科

です。原稿を書かねばと思い始めた頃、“御嶽山の噴火”をテレビが告げていました。突然の出来事で多くの登山者が犠牲になったと連日報道されています。“先のことは何もわからない”、平均寿命を頼りに余生を指折ってみても、何も保証されているものではないというのが実感です。“五十 六十が つばみなら 七十八十は 花盛り”の百歳節にあやかって、元気で飛んでるバアバでありたいと願っていますが、今のところ期間限定の守りとプチ旅行の他は何とは無しに過ごしているのが現状です。

最後になりましたが、電子時代に生まれたお若い方々の発想と実践にとっても期待しています。



平成26年度 徳島大学睦眉会総会報告

平成26年7月6日(日) ホテルクレメント徳島 4F

【日程】

1. 平成26年度睦眉会総会 10:00～10:30
 2. 第10回睦眉会主催講演会 10:30～12:00
演題 「巨大災害に備えて私たちができること」
講師 中野 晋 先生
(徳島大学教授 環境防災研究センター 副センター長)
- * 参加者 51名(会員41名、一般9名、学生1名)であった。

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議事
(1)平成25年度事業報告
(2)役員会報告
(3)平成25年度会計報告
(4)会計監査報告
4. 議案審議
(1)平成26年度予算案、事業計画案について
(2)役員改選案について
5. その他
6. 閉会

平成25年度 事業報告

1. 睦眉会主催 新入生歓迎昼食会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・平成25年4月5日
2. 徳島大学同窓会連合会 ニュースレター(活躍する卒業生)掲載・・・・平成25年4月、9月
3. 総会の開催(役員会で総会に代える)・・・・・・・・・・・・・・・・・・平成25年7月23日
(参加者 役員20名)
4. 徳島大学同窓会連合会交流会「びざん会」への出席(会長 他8名)・・・・平成25年10月24日
5. 徳島大学同窓会連合会交流会「近畿びざん会(大阪)」への出席 (会長 他1名)
・・平成25年11月24日
6. 睦眉会会報(第13号)の発行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・平成25年12月13日
7. 卒業式・医学部各賞授与式出席(会長他)・・・・・・・・・・・・・・・・平成26年3月24日
8. 卒業・修了記念品の贈呈・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・平成26年3月24日

役員会報告

1. 役員会開催状況(平成25年4月～26年7月)

年度	回数	開催日	場所	参加人数
H.25	1回	総会開催(役員会) 平成25年7月23日(火)	医学部第二会議室	20名
	2回	平成26年2月4日(火)	医学部第二会議室	14名
	3回	平成26年3月25日(火)	医学部第二会議室	19名
H.26	1回	平成26年5月21日(水)	医学部第二会議室	19名
	2回	平成26年6月17日(火)	医学部第四会議室	21名
	3回	総会開催 平成26年7月6日(日)	ホテルクレメント徳島	41名 (会員)

2. 各種委員会開催状況

委員会名	開催日	場所	参加人数
会報委員会	平成25年9月6日(金)	医学部第二会議室	9名
	平成25年10月7日(月)	医学部第二会議室	9名
	平成25年11月5日(火)	医学部第二会議室	8名
	平成25年11月20日(水)	睦眉会事務局	3名
学術・名簿委員会	平成26年3月3日(月)	睦眉会事務局	8名
	平成26年6月11日(水)	睦眉会事務局	4名
ホームページ委員会	随時		3名

3. 役員会・委員会における主な協議事項

- 1) 睦眉会総会・講演会について
- 2) 睦眉会役員改選について
- 3) 同窓会会員名簿発行について
- 4) 睦眉会会報の発行について
- 5) 睦眉会の役員の委員会活動について
- 6) 徳島大学同窓会連合会への協力について
- 7) ホームページの運用について
- 8) 新入生歓迎昼食会開催について
- 9) 卒業・修了記念品について

●● 平成25年度 睦眉会会計報告

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

【収入の部】

項 目	金 額
本部会費 (139名分)	2,780,000
貯金利子	433
繰越金	5,812,968
収入合計	8,593,401

【支出の部】

項 目	金 額
総会・講演会費用	25,150
印刷費・送料 (会報代を含む)	1,007,319
会議費	284,116
慶弔費 (入学卒業記念品, 退職教員記念品代を含む)	617,580
雑費	43,668
会報委員会活動費用	45,654
事務局運営費	200,000
予備費	6,369,914
支出合計	8,593,401

【収支決算の部】

総収入額	総支出額	次年度繰越額
8,593,401	2,223,487	6,369,914

平成26年3月31日 会計 竹林桂子

会計監査報告

平成25年度の会計報告書を監査いたしました。

会計処理は適正に、正確に処理されていることを証明いたします。

平成26年 6月17日

監事 後藤美弥子

手塚 健一

* 以上の報告事項は、すべて承認されました。

●● 平成26年度 睦眉会予算

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

【収入の部】

項 目	金 額
本部会費 (149名分)	2,980,000
貯金利子	500
前年度繰越金	6,369,914
収入合計	9,350,414

【支出の部】

項 目	金 額
総会・講演会費用	300,000
印刷費・送料 (会報代を含む)	1,300,000
同窓会名簿買い取り：学生進呈分	2,800,000
会議費	400,000
慶弔費 (入学卒業記念品, 退職教員記念品代を含む)	700,000
雑費	50,000
会報委員会活動費用	50,000
事務局運営費	200,000
予備費	3,550,414
支出合計	9,350,414

* 予算案は、提案どおり可決されました。

●● 平成26年度 事業計画

1. 新入生歓迎昼食会の開催 平成26年4月6日
2. 徳島大学同窓会連合会 ニュースレター (活躍する卒業生)掲載 . . . 平成26年4月、9月
3. 平成26年度総会・第10回講演会の開催 平成26年7月6日
4. 2014年版同窓会会員名簿発行 平成26年8月
5. 徳島大学同窓会連合会交流会「びざん会」への出席(会長 他) 平成26年10月30日
6. 徳島大学同窓会連合会交流会「関東びざん会」への出席(会長 他) . . 平成26年12月7日
7. 睦眉会会報の発行 平成26年12月頃の予定
8. 卒業式・医学部各賞授与式出席(会長他) 平成27年3月23日
9. 卒業・修了記念品の贈呈 平成27年3月23日

* 事業計画案は、提案どおり可決されました。

平成26・27年度 徳島大学睦眉会新役員

(2014年7月6日～)

役 職		氏 名	所 属	勤 務 先
名誉会長		近 藤 和 也	学科長	徳島大学医学部保健学科長 (徳島大学大学院HBS研究部)
会 長		河 田 明 男	放	三船病院
副会長		岩 佐 京 子	看	徳島大学病院
		川 田 直 伸	放	徳島大学病院
		江 原 隆	検	徳島市民病院
		杉 原 治 美	助	徳島大学病院
理 事	事務局	梅 野 真由美	検	
		市 原 多香子	看	徳島大学大学院HBS研究部
	総務	竹 林 桂 子	助	徳島大学大学院HBS研究部
		桑 村 由 美	看	徳島大学大学院HBS研究部
		富 永 正 英	放	徳島大学大学院HBS研究部
		松 浦 千恵子	検	
葉 久 真 理	助	徳島大学大学院HBS研究部		
理 事		加 根 千賀子	看	徳島大学病院
		真 鍋 理 絵		徳島大学病院
		米 田 好 美		徳島市民病院
		東 條 幸 美		徳島大学病院
		天 野 雅 史	放	徳島大学病院
		山 田 健 二		徳島大学病院
		山 岡 哲 也		徳島県立中央病院
		安 藝 健 作	検	徳島大学大学院HBS研究部
		笹 川 知位子		徳島県立中央病院
		佐 藤 雅 美		徳島大学病院
		岡 本 充 栄		徳島大学病院
		中 道 玲 子		
		上 田 美 香	助	徳島大学病院
監 事	後 藤 美弥子	看		
	手 塚 健 一	検		

2014年版 睦眉会会員名簿を発行しました

この度、昨年より準備を進めておりました、2014年版 睦眉会会員名簿を発行することができました。名簿発行に際しまして、ご協力いただきました皆様に、心よりお礼を申し上げます。

会員名簿は、同窓生の交流と親睦を深めることを目的として発行しております。取扱いには十分注意の上、ご活用いただけますようお願い申し上げます。

- 名簿発行日：平成26年8月1日
- 名簿価格：3,000円(会員のみに予約販売済)



<名簿作成委託先>

この名簿作成は、正式な同窓会事業として、プライバシーマーク取得の株式会社サラト(姫路市)に委託しております。

徳大ニュース

徳島大学に関するニュースをお届けします。詳細は徳大広報並びに本学ホームページを御覧ください。
また、会員の皆様の御意見や御要望をお寄せください。

徳島大学総務部総務課 (Tel:088-656-7021 Fax:088-656-7012)

E-mail : kohokakaricho@tokushima-u.ac.jp URL:http://www.tokushima-u.ac.jp/



I 学内の状況

1 徳島大学地域連携プラザ竣工記念式典を開催

平成26年4月3日、徳島大学常三島けやきホールにて、竣工記念式典を行いました。

平成24年度改修が完了した旧音楽棟と旧美術棟の間に、この二棟をつなぐ増築工事が完了し、このたび地域連携プラザが完成しました。

完成したプラザには、各種研究室や実習室のほか、「常三島けやきホール」と名付けられた293名収容の大ホールや小ホール、多目的室、「あわさぼキッズルーム」と名付けられた教職員のための子育て支援室などが整備されました。常三島けやきホールは、移動式の観覧席を整備し、観覧席を移動させることにより大小様々な講演会等に対応できるホールとなっており、また、観覧席を収納し、ホール全体を使用した展示会等にも使用できるホールとなっています。

2 企業の人事担当者が選ぶ大学総合ランキングで本学が全国6位にランク

就職・転職支援の日経HRが企業の人事担当者を対象に、「対人力」や「知力・学力」「独創性」などの5項目に関して、新卒社員の出身大学のイメージ調査を実施した結果、本学は全国総合ランキング第6位にランクされ、日本経済新聞（平成26年6月16日17面）に掲載されました。

調査は、全上場企業3,540社を対象にインターネットで実施されたものです。

本学は国公立大学出身者の評価が低かったコミュニケーション能力や主体性の高さなどで高得点を獲得し、「創造力がある」の評価は全国1位でした。

3 国立台湾科技大学内に徳島大学教育研究センターを設置

平成26年6月27日、香川学長をはじめとする本学訪問団が大学間交流協定締結並びに徳島大学教育研究センター設置のため、国立台湾科技大学（台北市）を訪問しました。

本センターは、これまでの徳島大学工学部と、国立台湾科技大学工学部及び電気情報学部の交流実績に基づき、今後、共同研究、学生交流を更に推進することを目的としています。今回の協定締結を機に、両大学間の共同研究5プロジェクトが開始され、2015年3月には、国立台湾科技大学から研究ユニットを招へいする予定です。

4 平成26年度徳島地域連携協議会－徳島大学と県内全自治体等との連携協定締結記念講演会－を開催

平成26年8月29日、徳島グランヴィリオホテル（徳島市）において、徳島県、徳島県市長会、徳島県町村会の共催により、平成26年度徳島地域連携協議会－徳島大学と県内全自治体等との連携協定締結記念講演会－を開催しました。

本学は、大学改革の目標の一つに「地域中核機能強化」を

掲げ、地域とのより密接な関係構築を目指して、県内全ての自治体等との連携協定締結を進めてきましたが、この程、徳島県、県内全市町村、徳島県市長会及び徳島県町村会との協定締結が完了し、本学と地域との密接なネットワークが完成しました。

協議会では、地域連携の更なる推進と地域中核機能の強化を内外に示すため、地域と共に歩むことを香川学長が宣言し、地域連携推進に関する本学の強い決意を表明し、協議会に続いて、この協定締結を記念し講演会を開催しました。

II 学生関係

1 入学式

平成26年4月7日、アスティとくしまで平成26年度入学式を挙行し、合計1,958名（学部1,333名、大学院修士（博士前期）課程469名、大学院博士（博士後期）課程109名、3年次編入学47名）の入学が許可されました。

入学式では、入学生を代表し、医学部医科栄養学科の竹治香葉さんから「本学の教育方針に従って学則をまもり、学術の研究と人格の陶冶に努めることを誓います」と宣誓があり、引き続き、在学生を代表して、薬学部 鏝 隆一郎さんから「やらないで後悔するよりは失敗を恐れず挑戦してほしい、自分の国だけを意識するのではなく広い世界を意識してほしい」と歓迎の言葉がありました。その後、香川学長から「ゆっくり腰を据え、自分のキャリアデザインを描きながら、有意義な大学生活を送られることを願います」とのお祝いの言葉がありました。

編集後記

今年度も無事に会報発行の運びとなりました。お忙しい中、ご執筆いただいた皆様、誠にありがとうございました。

会報委員として、会員の皆様から寄せられた原稿をいち早く拝見させていただき、皆様のご活躍に元気をいただいております。

松浦先生も述べられているように先のことは何もわからない世の中ですが、社会がどんなに変わっていき、どんなことがおきても、変わらない真実、それは、「かけがえのない命である」ということです。その命の現場に向き合うことのできる医療職の誇りと責任を噛みしめ、初心を忘れず、自分の職務を全うしていきたいと思っています。

会報は会員相互の絆を保っていく場でございます。次号もどうか奮ってご投稿くださいますようお願い致します。



ミヤマナルコリ
ユリ科

徳島大学陸眉会理事

徳島大学医療技術短期大学看護学科1期生
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

桑村 由美